

安法案

自民9人賛否示さず

中部6県の参院議員 滝波氏は「賛成」

安全保障関連法案の参院審議は与党が目指す九月中旬の採決をめぐり、野党との攻防が激しさを増している。中日新聞が中部六県（福井、愛知、岐阜、三重、長野、滋賀）の参院議員全二十七人に法案への賛否をアンケートしたところ、与党では自民党の十三人のうち九人が無回答および「回答を控える」などとして態度を明らかにしなかった。公明党の三人はいずれも「賛成」を表明した。安倍政権に十分な説明を求める国民の声は根強いが、自民党議員の消極姿勢が目立つ結果となった。

自民十三人のうち法案に「賛成」と答えたのは、滝波宏文（福井）、吉田博美（長野）、若林健太（長野）、柘植芳文（比例）の四氏。山崎正昭氏（福井）は「参院議長として中立を保つ」と、藤川政人氏（愛知）が「審議のため」とするなど、四人が理由を示したうえで「回答を控える」とした。酒井庸行（愛知）、大野

泰正（岐阜）、吉川有美（三重）、小坂憲次（比例）、山谷えり子（同）の五氏からは回答がなかった。与党では自民と連立を組む公明党の全員が「賛成」を表明。荒木清寛氏（比例）は「安全保障環境が厳しさを増す中で、紛争を未然に防止する必要がある」、魚住裕一郎氏（同）は「丁寧に審議が進められている」とした。これに対して野党の民主党は、十人全員が法

案に「反対」と回答。林久美子氏（滋賀）は、集団的自衛権の行使を容認した昨夏の閣議決定などを踏まえ、「憲法解釈を変更するのではなく、憲法改正を提起すべきだ」と答えた。芝博一氏（三重）も「憲法解釈を変えての法案」と国会手続への疑問を提示した。大塚耕平氏（愛知）は「国民と国の潜在的风险を高めることになる」と説明した。

無所属の薬師寺道代氏（愛知）は「『安保関連法案』と十把ひとからげに賛否を問うアンケートでは真意は伝わらないので、無回答」とした。

◇ アンケートは今月二日から五日にかけて、中部六県を選挙区とする議員および各県に住所もしくは事務所がある比例議員を対象に書面で実施した。

政党	議員名	法案への賛否	賛成=○ 反対=×	意見など	
自民	酒井庸行	愛知			
	藤川政人	愛知		審議中につき回答を控える	
	大野泰正	岐阜			
	渡辺猛之	岐阜		法案審議で多忙につき回答を控える	
	吉川有美	三重			
	吉田博美	長野	○	できる限りの時間を使い、丁寧に慎重な審議をしなければならない	
	若林健太	長野	○		
	滝波宏文	福井	○	緊迫する東アジア情勢を踏まえ、戦争・紛争を起こさないための抑止力強化が必要	
	山崎正昭	福井		参院議長として中立性を保つため回答を控える	
	二之湯武史	滋賀		参院で審議中のため無回答とする	
公明	柘植芳文	比例	○		
	小坂憲次	比例			
	山谷えり子	比例			
	荒木清寛	比例	○	日本を取り巻く安全保障環境が厳しさを増す中で、日米防衛協力体制の信頼性を高め、紛争を未然に防止する必要がある	
	魚住裕一郎	比例	○	丁寧に審議が進められている	
	新妻秀規	比例	○		
	民主	大塚耕平	愛知	×	憲法違反のうえに専守防衛という日本の防衛政策の放棄につながる。結果的に国民と国の潜在的风险を高めることになる
		斎藤嘉隆	愛知	×	武力行使が許される範囲が恣意(しい)的に伸縮・変化することから立憲主義に反し歯止めがきかない
		安井美沙子	愛知	×	集団的自衛権の行使の判断基準である新3要件があいまいで政府の裁量の余地が大きすぎるため
		小見山幸治	岐阜	×	日本国憲法では、これまで一貫して集団的自衛権を認められないとしてきた中での法案審議は、国民にはとても理解できるものではない
芝博一		三重	×	憲法解釈を変えての法案だから	
北沢俊美		長野	×		
羽田雄一郎		長野	×	平和憲法を持ち、不戦の誓いをした日本を戦争のできる国にすることには絶対反対	
林久美子		滋賀	×	従来の憲法解釈を変更するのではなく、憲法改正を提起すべきだ。本来、憲法は国民のものなのだから	
直嶋正行		比例	×	審議時間の短縮のためか法案を束ねて審議するなど、中身以前に手続きの問題がある	
津田弥太郎		比例	×		
無所属	薬師寺道代	愛知		「安保関連法案」と十把ひとからげに賛否を問うアンケートでは真意は伝わらない	

安保関連法案に対する中部地方の参院議員アンケート

※ □ は「回答を控える」および「無回答」